

『病院内でのマスク着用について(Q&A)』

慶應義塾大学病院では、これまで一律にマスクの着用をお願いしていましたが、**2026年10月1日**より、患者さん、付き添い・ご面会の方、医療従事者のマスクの一律の着用を見直すことといたします。院内でのマスク着用は**感染症の流行状況に合わせて、基本は個人の判断**といたします。

ただし、周囲への感染防止および重症化リスクの高い患者さんを守るため、感染症の流行状況に関わらず、**以下に該当する方はマスクの着用をお願いいたします。**

- ・発熱、咳、くしゃみ、鼻水などの症状のある方(咳エチケット：Q2をご覧ください)
- ・「10C病棟」「腫瘍・免疫統括センター外来治療室」に入られる方（これらのエリアでは、免疫力が低下した患者さんが入院・治療を受けられています。）

また、発熱や咳などの症状がある方は、マスクを着用されている場合でも、付き添い・ご面会にご遠慮ください。

なお、院内で必要に応じてマスクの着用をお願いする場合がありますので、来院の際はマスクをお持ちください。マスクは院内の自動販売機やコンビニエンスストアでも販売しています。

Q&A

Q1. マスクの着用は個人の判断でよいのですか？

A. はい、基本的には個人の判断が尊重されます。ご自身の体調や周囲の環境に合わせて着脱をご選択ください。マスクを着用される方、着用されない方、双方のお考えが尊重されます。個人の意思に反してマスクの着脱を求めることのないよう、お互いへのご配慮をお願いいたします。

Q2. 『咳エチケット』とは何ですか？

A. インフルエンザや新型コロナウイルス感染症（COVID-19）をはじめ、咳やくしゃみの飛沫（ひまつ）によって広がる感染症は数多くあります。「咳エチケット」とは周りの人に感染を広げないために、咳やくしゃみをする際にマスクやティッシュ、ハンカチ、袖などで口と鼻をおさえることです。病院内では、咳やくしゃみの症状がある方はマスクの着用をお願いしています。マスクの着用が難しい場合は、ティッシュ、ハンカチ、袖などで口と鼻を覆ってください。

Q3. なぜ院内でのマスク着用を見直したのですか？

A. 、呼吸器感染症の流行状況、および感染対策に関する知見の蓄積を踏まえ、一律の着用を見直すことといたしました。なお、感染症の流行状況や院内の発生状況によっては、病院の判断により、再度一律のマスク着用をお願いする場合があります。

Q4. 入院患者さん自身や、面会の際のマスク着用はどうなりますか？

A. 入院患者さんご自身の着用も感染症の流行時期でなければ、原則として個人の判断となります。ただし、治療上の必要から個別に着用をお願いする場合があります。体調不良時もマスクの着用をお願いすることがあります。ご面会の際の、入院患者さん、面会の方のマスクの着用も感染症の流行時期でなければ、個人の判断となります。ご面会の方に体調不良（発熱・咳など）がある場合は、マスクを着用されている場合であっても面会をお断りする場合がございます。

Q5. マスク着用を医療従事者からお願いされる場合がありますか？

A. 咳・くしゃみ・発熱などの症状がある場合、院内で感染症の発生があり、接触者になった場合などに、医療従事者から着用をお願いすることがあります。患者さんやご家族、そして医療従事者の安全を守るためのお願いとなりますのでご理解とご協力をお願いいたします。なお、障害の特性や健康上の理由、その他の事情により、マスクの着用が困難な場合は、受付または担当の医療従事者へご相談ください。

Q6. こどものマスク着用はどうすればよいですか？

A. お子さまについても大人と同様、個人（保護者の方）のご判断となります。お子さまの年齢やその他の事情によりマスクを着用できない（難しい）場合は、対応する医療従事者がマスクや目の保護を装着して対応いたしますので、受付または担当の医療従事者にお申し出ください。

Q7. どうして、マスクの着用を求められる場所（10C 病棟、腫瘍・免疫統括センター外来治療室）があるのですか？

A. 10C 病棟では、血液腫瘍患者さんなど、特別な環境で治療を受けている患者さんもいらっしゃいます。腫瘍・免疫統括センター外来治療室では、がんの薬物療法や免疫疾患に対する生物製剤治療が行われています。これらの治療を受けられている患者さんの中には、免疫力が低下し、健康な人であれば問題にならないような細菌やウイルスでも重症化リスクがあります。そのため、これらのエリアに入られる際は、マスクの着用を必須とさせていただいております。なお、マスクの着用をお願いするのは、それぞれの入口ドアより内側のエリアです。

Q8. 医療従事者はマスクを着用しますか？

A. 医療従事者についても院内でのマスク着用は原則として個人の判断となります。ただし、次の場合には必ず着用します。

- ・感染症流行に伴い、マスク着用を推奨する期間
- ・医療従事者自身に咳、くしゃみなどの症状がある場合（発熱がある場合は勤務いたしません）
- ・清潔操作・無菌操作を伴う処置を行う場合
- ・飛沫が生じる診療・処置が必要な患者さんに対応する場合
- ・10C 病棟、腫瘍・免疫統括センター外来治療室で業務を行う場合

マスクを着用される方・されない方、双方の意思を尊重し合い、相互のご配慮をお願い申し上げます。

以上

2026 年 9 月 18 日

慶應義塾大学病院 感染制御部